

## 薬剤師外来の推進期待

亀田総合病院 舟越氏

## バイオシミラー普及へ

亀田総合病院薬剤部の舟越亮寛部長は、19日に開かれた日本バイオシミラー協議会のウェブ講演会で、後発品に比べ認知度が低いバイオシミラーの普及に向け、薬剤師が服薬取り除くことが必要」と述べた。監察前に確認し、医師に情役割を強調した。

報提供や処方提案等を行った「薬剤師外来」の推進に期待感を示した。「後発品の普及時のように医療従事者の認知度を待っている余裕はなく、薬剤師が切り替えるに関する医療従事者や患者の認知度を上げ、不安を解消するため、地域として取り組むため、地域として取り組んでいくことが必要」と決めていくことが第一

舟越氏は「病院の薬剤師外来でバイオシミラーの説明と同意を行い、薬剤師が代行でバイオシミラーの入力を行う」ことを提案。病院の薬剤師外来と同様に、病院による服薬指導の推進も重要課題に挙げ、「先行品からの切り替えの基準や疑義照会ルールが不明確におけるバイオシミラーへの置き換え状況について「採用1年未満の品目・

ミュラリの部分でも一助になるのではないか」と述べた。

また、自己注射のバイオシミラーが上市されるにつれて院外処方が拡大し、「地域でのインシデントが増えている」と指摘。病院

水曜日

シミラーが上市されると、国内でバイオシミラーが上市された成分数を見ながら、「自施設で80%を超える程度必要なのかをシミュレーションしながら、医療機関で使用促進していくことになる。全てを一気に動かすのは難しく、優先順位を立てて戦略的に導入を促進していくことが必要」との考えを示した。